

日本タイ学会 2024年度研究大会プログラム

日時：2024年7月6日(土)・7日(日)	会場：大阪公立大学杉本キャンパス全学共通教育棟(8号館) アクセス：JR阪和線「杉本町駅」下車徒歩5分、大阪メトロ御堂筋線「あびこ駅」下車徒歩15分 (https://www.omu.ac.jp/about/campus/sugimoto/)
-----------------------	--

参加費：一般2,000円、学生1,000円 懇親会費：一般4,000円、学生2,000円 (会員/非会員とも同額、学生には大学院生も含みます)

7月6日(土)		会場1(815・1階)		会場2(832・3階)		会場3(833・3階)				
12:30~	受付開始									
13:20~13:30	開会の辞									
13:30~15:30	パネル	パネル1	タイ研究と統計資料		パネル2	国際移動と在日タイ人女性の生活史研究		パネル3	タイBLの現在—どのように影響を与え、成長しているのか?—	
		趣旨説明	小林 磨理恵		発表①	齋藤 百合子	日本とタイの開発とタイ女性の移動：人身取引から移住・定住、そして多文化共生の課題	司会	日向 伸介	
		発表①	末廣 昭	タイの統計制度史と国家統計局(NSO)	発表②	ブラーボン・キワラシン	HIVを通して見た在日タイ人の健康問題	発表①	ピヤ・ボンサピ タックサンティ	タイBLドラマの日本人ファンの特徴、行動およびその影響—アンケート調査より
		発表②	高橋 尚子	タイの農業・農村統計と農村の社会経済変化	発表③	江藤 双恵	国境を跨ぐタイ女性の選択—制度的側面からの考察	発表②	西田 昌之	母胎帰帰するボーイズラブ—日本におけるタイBLTVドラマ『SOTUS』同人誌の内容分析
		発表③	柿崎 一郎	交通・運輸研究における統計資料	発表④	新倉 久乃	国際移動とプンクンの実践—在日タイ女性の生活史から	発表③	平松 秀樹	タイの最新BL小説を読む—ナーガとガルーダはもはや宿敵にあらず
		発表④	今泉 慎也	データからみるタイの司法	コメント	東 智美 木曾 恵子				
15:30~15:45	休憩									
15:45~17:45	共通論題	共通論題1	スリチャイ・ワンゲーオと日本のタイ研究							
		司会・趣旨説明	尾中 文哉							
		発表①	末廣 昭	1970年代のスリチャイさん：東京大学大学院と在日タイ人留学生グループ(そして、私との交流)						
		発表②	スリチャイ・ワンゲーオ	วิชาการบนสายสัมพันธ์ไทย-ญี่ปุ่น: การพัฒนากับประชาสังคมในโลกที่เหลื่อมล้ำ (日本語で発表)						
		発表③	鈴木 規之	スリチャイ・ワンゲーオの問題意識：開発と市民社会の視点から(スリチャイ先生から学んだもの)						
		発表④	タナバット・チャンディッタウォン	タイ人若手研究者からみたスリチャイ・ワンゲーオ教授：タイにおけるコンフリクト解決と「公共圏」形成の側面から						
発表⑤	尾中 文哉	事例紹介：「ハック・ムアン・ナーン財団」に係わる繋がり								
18:15~20:00	懇親会「野のはなハウス」(杉本キャンパス学術情報総合センター1階)									

7月7日(日)

		会場1 (815・1階)			会場2 (832・3階)			会場3 (833・3階)				
8:55～9:30	個人発表	個人1-1	増野 高司	日本におけるタイ野菜(南国野菜)栽培拡大の可能性を考える	個人2-1	橋本 拓夢	チェンマイ県教育革新地区における教育条件整備の特例措置―「母語を基礎とした多言語教育」(MTB・MLE)の実践をめぐって―	個人3-1	金子 勝規	タイ東部の離島で生活する高齢者の生活の質に関する一考察		
9:30～10:05		個人1-2	岩井 華代	地域アイデンティティと日本兵語り：タイ日友好記念館の事例から	個人2-2	吉嶺 加奈子	大学改革としてのThai MOOC―フルオンライン高等教育の可能性と課題―	個人3-2	柴山 信二郎	タイのスーフイズム―聖者信仰的側面について―		
10:05～10:40		個人1-3	席 子涵	日中戦争下における海外華僑の戦争参加―シャム華僑を中心に―	個人2-3	渡辺 彩加	国境を超えた移動後の教育と将来選択―2021年クーデターを契機にミャンマーから移動した人々に着目して	個人3-3	長谷川 愛	当事者の語りにみるチェンマイにおけるアカ・ストリートチルドレンの生活世界のリアル―90年代後期～2000年代初頭を中心に		
10:40～11:15		個人1-4	村上 忠良	バンコクにおける寺院火葬場／葬儀寺院について	個人2-4	浅見 靖仁	タイ・ミャンマー国境貿易：税関統計から見えるものと見えないもの	個人3-4	綾部 真雄 白川 千尋	「先住民」運動との接続と齟齬―リスの文化復興運動を内側からみつめる―		
11:15～11:50		個人1-5	岩城 考信	戦前バンコクのセメント利用	個人2-5	江川 暁夫	タイのソーシャル・キャピタル蓄積と経済社会開発：国際比較と地域別分析	個人3-5	朴 苑善	チェンマイの都市を生きるタイヤイの若者―都市で開催される仏教関連行事とイベントに着目して―		
11:50～12:25		個人1-6	村嶋 英治	タイ王族貴族及び日本人の1903年シャム紙幣偽造事件から見えてくるもの	個人2-6	玉田 芳史	タイ政治の脱民主化とタックシンの政界復帰	個人3-6	馬場 智子	タイにおけるマイノリティの就学制度の運用および進路形成の実態と課題：チェンライ県を事例に		
12:25～13:00		個人1-7	山下 暁子	バンコク国立博物館におけるタイ音楽関連資料の展示について―1939年と2018年の比較を中心に―								
13:00～14:00	昼休み											
14:00～14:20	総会											
14:20～14:30	休憩											
14:30～16:30	共通論題	共通論題2	タイの高齢社会									
		司会・趣旨説明	永井 史男									
		発表①	永井 史男 奥井 利幸	タイにおける高齢者ケアの現状と課題―コミュニティベース統合型高齢者ケアの普及モデル事業の視点から―								
		発表②	三好 友良	タイにおける高齢者介護保障の現状：社会保障制度の整備状況と介護提供者の変化に着目して								
		発表③	クワンチット・サンウォンサーロート	Challenges of community-based care for dependent older adults: Reflections from family' perspective								
		発表④	江藤 双恵	コミュニティ福祉の現在と未来―フェミニスト地域研究の視点から								
		コメント	河野 あゆみ 馬場 雄司									
16:30～16:40	閉会の辞											